



friendship force
NARA

Friendship

会報第40号 2011 September

奈良



屏東科技大学（台湾）7名、香港城市専科学院（香港）12名、カンボジア・メコン大学（カンボジア）2名（合計21名）が、奈良FFメンバー宅で2泊3日のホームステイを体験しました。

3月11日の東日本大震災、津波、福島原発事故直後のために、訪日を反対された学生達は、地図を広げて「奈良は大丈夫」と一生懸命に両親や祖父母を説得して来日したそうです。

この時期に来日した彼らが「日本は安全だった、大丈夫」と伝えてくれる事が、今の日本の大きな助けになるんじゃないかな（頼みますよ）。地域交流、国際交流に力を入れている大学の思いと、クラブの活性化、若返りを模索する奈良FFの思いが繋がって、大きなプラスの効果が生まれたと信じています。

<後日届いた学長からのお手紙から抜粋>

留学生は、ホームステイが一番の思い出になったようです。ホームステイのみならず送別会でも踊りの手引きをして下さり、思いがけない体験に大変喜んでおりました。・・・(中略)・・・これからも本学の国際交流にお力をお貸しください。



緊張気味の学生に比べ、落ち着いた様子のホスト

七月十六日(土) 午前十時 奈良産業大学でホームステイマッチング
 七月十七日(日) 終日ホストファミリーデー
 七月十八日(月) 午後三時までに 奈良産業大学に戻る
 七月二十三日(土) 午前十時 日本語発表会
 午前十二時半より 送別会(学生食堂)

CHANGING THE WAY YOU SEE THE WORLD

あなたの世界を見る目が変わります

留学生日本語発表会 7月23日(土)

21名の学生がパワーポイントを使って見事な日本語で各自の体験談を発表しました。奈良は暗くて、人がいない。虫の音だけが聞こえる。関西弁は面白い。日本は綺麗でゴミが少ない。浴衣は腰が辛く、暑い。両足が遠く離れない。(歩きにくい)一番怖くて(?)期待したホームステイ、等々。今年は学生達の予定が例年以上に多かったため、徹夜でこの発表会の原稿を作ったそうです。ホームステイ以外にも色々体験していますが、報告は圧倒的に「ホームステイ」の感想でした。



研修終了証書授与に
立ち会う日本の
お母さん・お父さん



屏東科技大学(台湾)7名の終了記念写真



自分達の子供も成長しちゃったし・・・。
久し振りの体験だったね～。

現代中国人気質 植田均教授の講和より

7月24日の例会で、奈良産業大学の植田均中国語教授から、現在の中国事情について裏話も交え楽しい講話を聞くことができました。教授が撮影された数多くの写真をプロジェクターで見ることから始まりました。

香港に隣接する^{シンセン}深圳から大連まで、教授が訪問された多くの大学は、そのほとんどが敷地内に国営ホテルを有し、さまざまな施設を含み、広大さは目を見張るものがあるようです。

なにしろ今の中国は学歴こそが出世の絶対的条件。それが極端な格差社会を生み出しています。お金が(口ほどに)物を言う社会では、役所でも病院でも袖の下が横行し、労働者は自ら残業を要求してストライキをすとか。いまや街から自転車が消え車社会になっているそうで、広州ではホンダの車を持つことがステータスとか。面子を大事にしている様子がよく分かります。

街角には犬料理のレストランが多く“理髪店は裏のビジネスがあるのでご注意を!!”ということでした。





台湾の大学生、林君鴻がやってきた。外国の若い学生のホストをするのは25年振りである。本人の希望に沿って大阪市内と奈良公園界隈を散策した。言葉の端々から彼が日本の歴史について相当な知識を持っていることがうかがえた。翌日は由紀子共々テニスに汗を流した。夕食後、彼持参の中国茶を飲みながら深夜まで三人で話し合った。彼は弟妹思いの兄であり、両親や祖父母を敬う良き息子である。彼と話していると、昨今日本で少なくなった“温かい大家族”の姿が彷彿としてよみがえり、大柄な彼に宿る優しい心根がひしひしと伝わってきた。「お手伝い出来ることがあれば何でもします」との申し出を受け非常に感激した。台湾に良き息子が一人出来た思いである。

藤田 欣吾



短い2泊3日の受入れでしたが、長女と歳の離れた香港の“次女”の誕生で、私たち夫婦は1男2女の親になりました。ボーイッシュで、ハキハキして、明るくて、頭の良い次女は、秋が大好きだから、ニックネームは「アキ」。夫も終始ニコニコ。夫との共通点も発見！ 魚が大好きで皮まで完食、骨だけがきれいに残ってお見事！

日本が大好き。日本語も堪能で、大学卒業後は日本での就職を希望しています。アキちゃんの夢が叶いますよう日本の両親は祈っています。またいっしょに卵焼きを作りましょうね。

フレー、フレー、アキちゃん。

高尾 ハツ子

カンボジアのメコン大学からのクム・キムシエットさん（23歳）の受入れは、2泊3日の短いホームステイなので、あれこれプランを考えましたがまずは希望を聞いてからと思いました。初日は体調不良で家でゆっくりすることから始まりました。学校からかなり観光に行っていたようなので、かえって日常生活をいっしょに楽しめたことを喜んでくれました。日本語が流暢で、真面目で素直な女の子。日本のお父さんお母さんと呼んでくれて、本当の娘のように楽しく過ごせ、若いパワーをもらったような気がします。

池上 世子

香港からの留学生、ジャクソン（李軒燿）君は、自分が履いてきた靴をきちんと前向きに揃えて我が家へやってきた。彼にまつわる印象は、これに尽きると言ってもいい。とにかく礼儀ただし、控えめだった。「やはり東洋人共通のDNAを持っているなあ」と唸らされたものだ。カラオケに行った。だみ声、調子っぱずれのこちらのがなり声にジャクソン君は「上手ですねえ」。相手に恥ずかしがらせない心遣いだ。初日の夕食に備え、アルコールのディスカウント店に連れて行き、「今夜は君のウェルカムパーティー。何でも好きなものと言って」と何度促しても「いえ、いいです」とひたすら遠慮。で、別れ際、「とても楽しかったです」と言う。ほんとうなら、またおいで！

吉川 利文 / 公子

留学生受入れ 私のひとこと



初めてホストを経験させていただきました。黄茹憶さん（ルーチャン）はたいへん控えめなお嬢さんでした。日本語の発音が聞き取りにくそうで、よく筆談で確認しました。字で書いた方が理解しやすいようでした。二日目は歌舞伎観劇に連れ出し、道頓堀などを歩き、大きなグリコの看板を背に記念写真を撮ったりしました。満足してもらったかなと思っています。

西野 博子



台湾・屏東科技大学の年順（二エンシュン）君は、祖父母、両親、姉、妹、と彼の7人家族。ご両親は果樹園を営んでおり、蓮霧（リエンウー）という果物を作っているそうです。彼は大変おとなしく、素直で、よく気がつく好青年でした。進んでお手伝いもしてくれ、こんな息子だったら何人いてもいいなと思いました。事前情報では日本語も英語も挨拶程度とありましたが、思ったより日本語が通じ、日本語と中国語と半半で過ごしました。今回、中国語サークルの仲間と、奈良産業大学でも教鞭を執られたことのある中国語の先生も交えてのホームパーティーも楽しんでくれました。「日本大好き！いずれは日本で仕事がしたい」と夢を語ってくれました。

河村 ひとみ



留学生受入れ
私のひとこと



梁文潔（通称カリナちゃん）は20才。待望の可愛い女の子をホスト出来て、私は大満足。思っきりピンクの振袖を着せ、成人のお祝いをしました。夢は日本で働く事だそうです。（叶うといいね。）ちなみに“娘に振袖を着せる”私の夢は、叶いました。カリナちゃんありがとう！

鬼頭 かつ美



今回初めて我が家に留学生を受け入れましたが、若い学生ということもあって、リラックスして迎えることができました。ところが迎えた男の子は特にシャイで、かちかちに緊張していて、かわいそうなくらいでした。グループで行動したので彼らも次第に打ち解けてきたのですが、ホームステイは、あっという間に終わってしまい、もう少し家族と過ごす時間を持ったらよかったかな、というのが反省点でした。

松本 朱美



大西会長に聞く

— 今回、アジアからの留学生のホームステイで、学生や大学にたいへん喜ばれたばかりでなく、受入れた会員にも大層好評だったと聞いています。素直で礼儀正しく好感が持てた、若い人相手に気軽に受け入れられた、自分たちの方が若いパワーをもらった、子供世代や孫世代までが交流に参加できた、などなど。

大西 アジアの人たちに対してはやはり身近な感じがあり、受入れ日程が短期だったことや、相手が若い学生だったことなどと相まって、気楽に息子・娘感覚で交流できたみたいですね。

— どんな経緯で、留学生を受け入れることになったのですか。

大西 今回の留学生受入れの話は昨年ハイキングでお訪ねした深野の「ササユリ保存会」を通じて知り合った室生村国際交流組織から今年の初めに偶然相談を受けたのですが、結果的には室生村の方がスケジュールの都合で受け入れ出来なくなり、奈良クラブのみで受ける事になりました。もともと留学生受入れの依頼は奈良産業大学から室

生村国際交流組織になされたものです。奈良クラブは今日現在は非常に活力がありますが、5年後、10年後のことを考えると必ずしも安心はできません。会員がまだ元気うちに将来に向けての対策をしておかないと、活力を失い始めてからでは遅すぎると思っています。今年の活動方針にも、地域社会における社会貢献やより幅広い年代層への活動の展開などが上っていますが、留学生との交流は奈良クラブの活動方針にも適うものと思っています。

— 今年は、東日本大震災によって来日予定の海外 FFクラブがキャンセルになったところへ、タイムリーに留学生受入れの依頼を受け、結果的には予想以上に成果があったわけですが、これは来年以降も継続的に実施される新しい活動計画と位置づけていいのでしょうか、

大西 是非継続したいと考えています。留学生との交流は会員の子供達や孫達を巻き込むきっかけにもなり、会員の若返りを図るための一つの手段にもなり得るのではないかと期待しています。

私達のゲスト、香港城市大学の袁立翔（愛称ショウ）は24歳、サッカーが趣味で、大学のクラブや地元のチームに所属している。日本語を勉強して8ヶ月、日常会話は不自由なく話せ、文章も上手に書ける。また、イギリスに3年間留学し、英語は堪能で、彼との意思疎通には不自由がなかった。

17日、彼の希望で祇園祭を見学。山鉾を引く人たちの、袴・袴の衣装に興味を持ち、「どこで購入できるか。」と尋ねたのには驚いた。その日は暑く、人ごみの中、彼は年配の私を始終気遣ってくれた。私は息子と久しぶりに歩いている感覚だった。また彼は、ワールドカップで日本が優勝したことを我がことのように喜び、「I'm lucky」と何度も万歳をした。

もう一つ今回の受入れで嬉しい事は、娘婿が深く関わってくれたことだ。私は、今回の受入れが、若い世代にFF活動をPRできるきっかけになればと思った。

内田 堯子



留学生受入れ 私のひとこと



屏東科技大学の郭韋辰（愛称リュウジ）は、やわらかな雰囲気を持ったやさしい青年でした。今回の受入れは娘に全て任せていたのですが、突然のコンクールの出場に自分のことで手いっぱいになり大慌て！大西さんにSOSを出し助けてもらって何とか過ごせたのでした。リュウジは日本語も英語もままならず、大西さんが受け入れた香港城市大学の黄朗軒（愛称ロウ）に素晴らしく堪能な日本語でホームステイの状況について詳しく教えてもらいました。

小野 弘美



交流層の拡がり

— 今年もFF本来の交流が無くなったのでゆとりがりましたが、本来の受入れ・渡航と重なったら、ちょっと忙しくなりますね。

大西 大学と特別に契約を交わしているわけではありませんので、毎年検討すればよいのですが、2泊3日と短期間だし、留学生が来る7月は海外からの受入れが基本的でない時期でもあり、また会員の中には1週間の受入れは難しいが2~3日なら経験してみたいという人達もおられるので、そういう人達に対するチャンスにもなります。受入れの経験は出来るだけ多くの会員にいろんな形でして頂ければいいと考えています。

— 5月の例会に、奈良産業大学で学んでいる蘇州からの留学生9名が来ましたね。在日の留学生のホームステイも考えておられますか。

大西 彼等のホームステイとなると平素は学校がありますから、土曜日の夜1泊ぐらいですかね。ただ、彼等には日本在住外国籍の方々との交流の行事などにも参加してもらって、親交を深めたらいいと思っています。具体的

には10月2日に「日本文化体験」のイベントを進めていますが、奈良産大の留学生にも参加を呼びかけています。

— FFI本来の活動との関係や位置づけはどのようなのですか。

大西 留学生との交流が「世界中の人々との友情を育むことによって世界平和に貢献する」というFFIの基本理念に反するとは思いませんし、むしろ奨励されるとさえ思っています。FFI自体も世界的な会員の高齢化とそれに伴う活動の沈滞化を防ぐために、新たな活動分野の拡大を模索しています。例えば英語圏以外の英語教師を対象にした交流体験プログラムとか、「キルティング」「ガーデニング」などテーマのある交流など、従来からのクラブ間交流以外の多彩な交流プログラムが提案されています。

— 高齢化がFFクラブの世界的な課題だとしたら、留学生の受入れや交流は当を得たプランだといえますね。子ども世代・孫世代を巻き込みながら、その友だちへと輪を拡げ、若い世代に世界平和に繋がるFF活動の理解が深まって、ひいては会員の若返りに結びつけばいいですね。

祇園祭の宵山の日、我が家へ来てくれた蔡家芸さん。初めてのホームステイでドキドキ、ナーヴァスだったようです。彼女の唯一の希望が「祭りに行ってみよう」とありましたので、さっそく京都へ！大勢の人込みの中、かわいい家芸ちゃんを迷子にしないよう手を繋いで汗だくでお祭り鑑賞をしました。

西村 樹美



留学生受入れ 私のひとこと



初めてホストをさせていただきました。日本語の上手な香港の留学生でしたので、お互い意志の疎通ができて良かったです。

1日目は祇園祭の宵山へ、2日目は六甲山へドライブ、3日目は家で折り紙をしました。わずか3日間でしたが、日本の文化や生活習慣、食事など紹介できて、これが日中友好の小さな一助になれば嬉しいことです。

前野 美佐子

おとなしくて優しい21歳の潘潔思（ハン・ケッシ）、ニックネームは4月生まれだからウツキちゃん。

家では、市場で野菜を売って遅くまで働く両親のために夕食を作って待つという孝行娘。話を聞いて私たち日本の両親になりたいと心から思いました。そのウツキちゃん、日本のアニメが大好きで、歌が好き、天使のような声で歌います。そこで彼女の友達のホストとも打ち合わせてカラオケへ連れて行ったところ、水を得た魚のように日本のアニメの歌を次から次へと歌いまくり、世界に冠たる日本のアニメをそこまで知らない私達の方がカルチャーショックでした。

畑 廣子



今回、私は香港の陳穎妍さんのホストになりました。彼女は明るい、おしゃれに関心のある子で、日本語も堪能で、会話は安心でした。私には娘がいないので、短い期間でも娘の母親になれたことを幸せに感じました。

カラオケでは3時間、次から次へと日本の歌（特にアニメソング）をすべて日本語で歌い続けるパワーに圧倒され、日本のママは一曲も歌わずじまいでした。ホームステイ後も香港組11名は5時間カラオケで歌い続けたそうです。

また今回我が家をオープンハウスにして、バーベキュー、そうめん流し、書道、着付け、茶道、花寄せ、聞香などをし、そして夕食の巻きずしもいっしょに作って食べ、地元の住職のお話も聞きました。

滋井 寛子



我が家にステイしてくれた謝欣宸さんは台湾からの20歳の女の子。大学でコンピューターを学び、将来エンジニアになりたいそうです。道上さん受入れの陳俊康君（香港）と共に行動し、平城宮跡、伏見稲荷、月桂冠酒造、春日大社などへ出かけました。不確かな説明を熱心に聴いてくれ、冷麺もかき氷も、お好み焼きも、てんぷらもおいしいと言って食べ、朝の味噌汁、ごはん、海苔も大好きだと言いました。スーパーマーケットへいっしょに行き買ったマンゴーは、台湾の方がおいしくて安いそうです。

猛暑、言葉の壁、年齢差などありましたが、いつも笑顔で“はい”と答えてくれる清々しい彼女に、とても癒されました。ステイが終わった次の日に、彼女はもうスカイプでアクセスしてくれ、若い人から心地よい刺激をもらった受入れでした。

吉岡 三枝



我が家に来たのは香港の陳俊康君でした。私は香港の人は日常的に英語を使い、みな流暢に話すのかと思っていましたが、高い英語教育を受けられるのは、お金持ちで勉強の出来る人だけで、多くの人はそうではないらしいです。ちょっと意外でした。

彼は日本語が上手で、アニメで日本語を覚えたそうです。一人っ子で無口、少し無表情で、彼の方から何かに関心を持って尋ねてくることはありませんでしたので、何とか言葉は通じましたが、我が家にホームステイして楽しかったのかな？という思いが残りました。

道上 恵子

Hi! How are you?

♪♪ 会員の友情の輪を広げましょう ♪♪

趣味・体験談・お気に入りの場所や店・家族のこと・FF 奈良の感想など自由に語って頂く、自己紹介コーナー

木原 豊久 (奈良市鳥見町)

FF 奈良に入会して、四年になります。娘の親友、山足さんのご両親のお勧めで入会しました。製薬会社に勤務、定年後さらに薬の卸会社に管理薬剤師として十年間勤め、七十歳でやっとフリーになりました。趣味は表装製作とゴルフですが、体力維持のためゴルフレッスン、スイミング、気管支強化を目指し、腹式呼吸によるカラオケを試みています。

FF では、マーチン先生の英会話教室で苦闘中ですが、脳老化防止作用を期待するのみです。しかしそうそうたる良妻、賢婦の皆様と交じって、温かいお心遣いのもとでのレッスンは、貴重なひと時です。

後期高齢者としては、このあと「健康で美的」に過ごすのが理想ですが、よく考えて見ますとFFの皆様はすでにこの事を実践しておられます。それは、好奇心、行動力、人類愛に富んでいるからです。私も、皆様のオーラをお受けしながら、何とか後からついて行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



上山 よし子 (生駒市真弓)

山足さんの紹介でFFに仲間入りさせて頂きました。大人のホームステイには、以前からあこがれがありました。15年位前でしたか、8人の友人とオーストラリアへホームステイに行きました。全く英語も出来ないのにです。キャンベラのブッシュウォーキングのメンバー30人位が私達を2週間お世話して下さいました。初対面でも、とてもフレンドリーで、まさにFFの理念と同じです。その時の感動が忘れられず、またいつかというのがずっとあったのです。でも長い間、自分のための時間が取れず、(今も孫の世話、老人介護で大忙しです)今に至っています。けれども、次のプログラムには是非とも参加させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



藤井 英雄 (奈良市鳥見町)

約5年前、「これからどう過ごすのか?」と展望もないままリタイア。会社人間で、業務エリアも国内だけ。海外は地図や映画で知るのみ。ただ、憧れだけはあった。だから、リタイア後、ヨーロッパを訪ねるツアーに積極的に参加。ただ、イマイチ満足感はなかった。昨年3月、奈良でのFF日本大会に参加された旧知の森房さん(FF仙台所属)と約10年ぶりに再会。これをきっかけに、FF奈良へ入会。会員一人一人が、FFIキャッチフレーズの“Explore” “Understand” “Serve”を、実践している大変元気で活発なクラブとの印象を受ける中で、はや1年を経過。



今の生活はこれまでとはすっかり異なり、毎週の英会話にはじまり、スケジュールの中心はFF。毎日が日曜日の退屈な日々から「FF“奈良”漬け状態」へ劇的に変化。以上の通り、日々老骨に鞭打って精進しています。これからもよろしくお願いいたします。

左から本人、妻、森房さん(FF仙台)

中部ブロック会議

6月11日三重クラブ主催の「中部ブロック会議」が開催され、奈良クラブより6名参加（大西弘、仮家正剛、山足和生、佐々木啓子、阪井敏江、西野博子）。以下の件が、議題にありました。

1. 国内の交流について
2. EDの養成について
3. 年会費
4. 震災の影響
5. その他



手作りグループ

7月例会での作品販売は、45,500円の売上げがありました。材料費を除いて40,000円会に入金となりました。ご協力ありがとうございました。次回は11月の例会で販売予定です。



ガイドと歩く「郡山環濠集落の歴史散策」

6月4日、第二回歴史ハイクを13名の参加で実施しました。今回は昨年に続きお隣の市、郡山を訪ねました。郡山には、集落全体を濠が囲む形式の環濠集落が3箇所（番条・若槻・稗田）ほぼ原型をとどめて現存しています。ベテランガイドの相馬氏の巧みな話術で、楽しく歴史を学習することが出来ました。改めて古い歴史のある奈良に住む幸せを実感しました。4月21日の番条町の「お大師さん」は、興味深いお祭りのようです。皆さん一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

内田堯子(記)

ホタル狩り

雨上がりのどんよりした日にはホタルが飛びやすいという条件にピッタリの7月8日(金)大阪府民の森、森の工作館で久保館長からホタルの成育プロセスなど楽しいレクチャーを受け、いざホタル狩りへ。いきました！いきました！！ 幻想的な自然のイルミネーションに静かに歓声を上げました。そっと手を差し出すと止まってくれたホタルもあり、短時間ではありましたが参加者(27名)の方には満足いただけたと思います。

河村ひとみ(記)

盆踊りの練習をしています。参加ご希望の方はイベント係りの内田さんまで。



編集後記

広報に新メンバーが加わり今号から活動開始。どんな場合でも「新しい」は新鮮さとパワーを感じて、いい感じ。いい感じと言えば若者たちの受入れ。いい感じで過ごせた2泊3日。彼らは日本の若者と同じ感覚だったので驚いた。台湾、香港、ベトナム・・・やっぱりアジアの国々は近いんだと実感！ (ono)

編集・発行
広報委員
事務局

ザ・フレンドシップフォース・オブ・奈良 広報委員会
青木俊一・張替令子・小野弘美・鬼頭かつ美・道上恵子・別所啓子・浅田喜美子
〒630-8036 奈良市五条畑 1-20-16 TEL / FAX 0742-48-4334
E-mail holinonenara@kcn.ne.jp HP <http://web1.kcn.jp/ffnara/>

ホームページ
見てね

これからの活動計画

- 日本文化体験
月日：10月2日(日)
場所：はばたき(生駒市上町)
時間：13時00分～16時頃まで
- 日本大会
FF太田・群馬クラブ
11月19日(土)～20日(日)
- APF (アジアパシフィック・フェスティバル)
11月、タイ
- ◎ Gold Coast Club 受入れ
2012年5月8日(火)～17日(木)
- トルコ Ankara Club 渡航
2012年6月初旬
- カナダ Manitoba Club(Re.Ex)受入れ
2012年10月中旬
- 世界大会
FF広島クラブ
2012年10月末